



さざんか



『宝塚くるみの里』
が開所しました！



内容

- 理事長より
- 法人の取り組み
- 事業所探訪（宝塚けやきの里）
- 後援会会長より
- 退任あいさつ（和田 前常務理事）

- 事業所だより
- さざんかグループホームの今
- 防犯への取り組み・事業所市民見学会
- 人事・日誌
- SASANQUA展・編集後記

発行 社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会/宝塚さざんか福祉会後援会
 運営事業所 宝塚さざんかの家 宝塚あしたば園 宝塚めふプラザ 宝塚けやきの里 ワークプラザ宝塚
 かしの木工房 こはま 宝塚くるみの里 いきいき宝夢
 宝塚市障害者就業・生活支援センター 相談支援センター さざんかグループホーム
 さざんかヘルパーステーション 地域生活支援センター（楽樹）

法人事務局/後援会事務局

宝塚市安倉西3丁目1番5号 宝塚さざんか福祉会 電話0797-83-6544 FAX0797-83-2510

より堅実な法人運営のために、
運営体制等の見直しを行いました。

理事長 松井 美弥子

平成28年度は改正社会福祉法の施行により、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的取り組みの責務を着実に実行するために定款変更等を行いました。

今年4月には安倉南作業所が「宝塚くるみの里」として認可を受けまして、当法人運営の通所事業所は7、入所事業所は1、グループホームは20となり、370余の利用契約数となっています。

平成29年度より各事業所の財務の健全化と利用者支援についての連携の強化を念頭に置き、管理運営体制を見直しました。通所・入所の8事業所を統括する事業部長とグループホーム20の運営を統括する部長を配置し、常務理事が相談事業等4事業所を直接統括し、各事業所長は課長の立場の管理職として事業運営に当たります。法人本部の事務局体制の強化の検討もしております。

今年度は、各事業所とも職員（支援員）の配置も定数の確保がやつの状況ではありませんが、それぞれにチームワークで心を合わせて丁寧な利用者支援を行って参ります。

また、職員の研修についても、更に目的を明確にし、積み上げ可能な研修を行っていき、直接支援を行う現場職員として、どの利用者へも365日の支援を担う責務があることへの意識付けに向けて更に努力をしてまいります。保護者の皆様もどうぞ温かく見守っていただき、ますようお願い申し上げます。

「宝塚くるみの里」が開所しました

宝塚くるみの里が4月1日より開所し、4月4日（火）に開所式を行いました。当日は保護者の皆様を始め松井理事長、今西常務、平尾事務局長にも出席いただきました。利用者の皆さんは普段と違う様子のフロアーに少し戸惑いも有りながら、落ち着いた雰囲気の中で開所式に臨まれました。

くるみの里は平成26年5月より宝塚あしたば園の分室・安倉南作業所としてスタートしました。建物のバリアフリーの特性を活かし、利用者に安全な生活を送って頂けるよう配慮し、また利用者一人ひとりに寄り添った支援を行い、利用者の皆さんと時間を掛けてコミュニケーションを取ることを大切にしてきました。そんな中、少しずつ利用者も変わってこられ、自分から動くことが多くなってきました。自分のやりたい事を職員に求めてきたり、お手伝いをするのが楽しみだったり、今はそれをしたくないと表現してこられることを私たちも共に喜んでおります。これからもそういう心の通う支援を続けて行きたいと思っています。

宝塚くるみの里は生活介護事業所で、定員16名です。4月は14名の利用者でスタートいたしました。主には、皆さんが得意とする空き缶作業や課題等に取り組んだり、また健康面に特化したプログラムとして、朝のバイタルチェックから始まり、屋外活動に出掛けるのウォーキングやバランスボールを使って体幹を鍛え、姿勢を保てるように取り組んでいます。くるみの里の名前の由来は「これからやって



来る未来が実り多い日々である様に、前にすすんでいきたい」という想いです。そしてくるみの里の新しい役割を持って、新たな事業を展開していきたいと思っております。

開所式を迎えるにあたって、利用者と一緒に式典の看板を作ったり、あしたば園の利用者の皆さんからもタペストリーを作って贈って頂いたり、また記念品は、かしの木工房こはまの方でくるみ入りのケーキを特別に焼いて頂きました。いろんな方たちのご協力の中、開所できたことに感謝申し上げます。

またあしたば園の保護者会や宝塚市手をつなぐ育成会からも素敵なお花や観葉植物を贈って頂いて、式典に華を添えて頂きありがとうございます。

式典で利用者の紹介をする時立派に挨拶に立たれた方もあれば、少しはかんで恥ずかしそうにされている方もおられました。



後半はボランティアの「カリナ演奏グループ」がトトロの「さんぽ」や中島みゆきの「糸」等を演奏して式典を盛り上げて下さいました。利用者もカステネットを叩きながらリズムを取って楽しんでいました。

これからも職員一同心を新たに利用者へ毎日笑顔で楽しく過ごしていただけるよう真心をこめて努力して参りますので今後ともよろしくお願いいたします。

(宝塚くるみの里所長 竹内 ゆかり)

ぶらぶらり 事業所探訪

さざんか福祉には沢山の事業所がありますが、其々の事業内容やその特徴、どのような利用者さんを対象に…、その支援体制は、作業は主に何をしているの、雰囲気は…等を広報部員が訪問し、シリーズで掲載していきます。

宝塚けやきの里

今回の事業所探訪は、「宝塚けやきの里」を訪問し平賀所長にお話を伺いました。

「けやきの里」は、

平成17年にさざんか福祉会の4番目の通所施設として開設されました。定員30名の生活介護サービスを提供し、今年度は特別支援学校を卒業したばかりの新入生2名を加え、31名の利用者さんと契約をしておられます。18歳から最高齢は69歳の方まで、男性22名女性9名の利用者さんに対し



所長を含め10名の職員が支援に当たられています。

「けやきの里」は当初「さざんかの家分場」のケーキ製造作業を引き継いでスタートしました。平成21年には、それまで「あしたば園」で行われていたクッキー作業も移転し、さざんか福祉会の製菓製造部門を担ってこられました。建物も明るく可愛らしい外観でお菓子作りのイメージがびつたりだったのですが…。

しかし、平成24年10月に「かしの木工房こはま」が開設されると同時に製菓製造部門は全てそちらに集約されることになりました。それに伴い「けやきの里」では、作業内容の変更や作業室の改修など大きな変化が必要となりました。国の障害者支援制度の改革もあり、さざんか福祉会にとっても変革の時期でもあったようです。



ゆつたり広々としたエントランスホールを抜け、平賀所長の案内で1階の作業室を見学させてもらいました。企業提携の作業で、葬儀の会葬御礼などに使われるタオルの箱詰め作業です。箱を組み立てる方、タオルを畳む方、そのタオルを箱に詰める方と分担して作業しておられます。

作業内容は…

ゆつたり広々としたエントランスホールを抜け、平賀所長の案内で1階の作業室を見学させてもらいました。企業提携の作業で、葬儀の会葬御礼などに使われるタオルの箱詰め作業です。箱を組み立てる方、タオルを畳む方、そのタオルを箱に詰める方と分担して作業しておられます。



見学者の目を意識して張り切る方、われ関せずと作業に没頭される方、マイペースでゆったりと過ごしている方と、どこか施設でも見られる作業風景です。



縁起物のパーツ作りは、利用者さんが担当して仕上げは職員の方が手伝っておられました。限られた季節のものと思ったり、一年中仕事はあるということですが、

2階の作業室でもタオルの箱詰め作業をしているというところでしたが、見学時間がちょうど12時前で、午前中の作業が終わり皆さん昼食を待っている様子でした。

その他に施設外での作業として、大堀川公園の清掃、逆瀬川デイサービスの清掃、週2回福寿荘（高齢者施設）のトイレなどの館内清掃、年数回西山霊園の清掃などがあるそうです。





ボーナスが出たよ

平成28年度の平均工賃は約4,300円。4月の工賃支給日には、28年度収支の結果で平均20,000円のボーナスを支給することができたそうです。利用者さんにとっては思わぬ大きな収入だったようです。



現在31名の利用者さんの内、約3分の1の10名の方がグループホームを利用されています。自力で通所されたり通所バスを利用される方以外に、6名が家族による送迎をしておられるそうです。

お待ちかね昼食タイム

今日のメニューは、煮魚・白菜の具だくさんゴマ和え・つるるんスープ・ごはんです。数名

大成功だった安倉フェスタ

昨年11月、さざんかの家と合同で、地域交流として安倉の鳥島団地の皆さんと共に「安倉フェスタ」を実施されました。午前中は団地周辺の清掃を、午後はカラオケ大会とくじ引き。高齢化が進む団地の清掃に協力したり親睦を深めることで、地域の皆さんが施設や障害者に対して理解を深めていただけたらという思いで行われた「安倉フェスタ」は大成功だったようです。是非今後も継続していきたいと言われました。



今後の課題は...

18歳から60歳代まで年齢幅のある利用者さんが同じ空間同じ時間割で過ごすことに難しさがあります。高齢の利用者さんにとっては、エネルギーシユな若い人たちの行動は刺激が強すぎる場合もあります。それでも限られた施設の中で、必要な配慮をしながら、それぞれに合った支援をどのようにしていくかが課題の一つであると考えられています。

一人ひとりの利用者さんのできることを無理せず伸ばしていく支援を心がけていますと話された平賀所長の、穏やかに包み込むような雰囲気「けやきの里」全体の雰囲気を感じたものにしているような気がしました。(広報部)

の特別食(アレルギー対応等)以外の方は、厨房のカウンターに並べられた食物を、利用者さん自身がトレイに取って席に着きます。特に決められているわけではないけれども、自然とそれぞれの席が決まっているようです。女性陣は人数が少ないせい、同じテーブルで食事をされています。



多彩な生活プログラム

さざんか福祉会全体の生活プログラムとして、

- ・スポーツレクリエーション
- ・音楽プログラム
- ・水泳
- ・料理

それぞれ希望者が他の事業所の利用者さんと一緒に参加されます。

また、けやきの里独自のプログラムとして、利用者全員を対象に『ブックトーク』が行われます。介護ブッ



クトークボランティアの方を中心に、介護の現場で行われている手法で、一般の読み聞かせとは違い聞く側がプログラムに参加しながら行われます。いろいろな本を紹介して、その中から自分で本を選び読むという自己選択の機会を作ったり、本に対する興味を深めようという取り組みです。

日帰り旅行と一日活動

昨年10月には全員で京都・滋賀方面へ日帰り旅行に行かれました。信楽焼のたぬきを製作。それぞれ個性的なたぬきが出来上がったそうです。今年度も時期や行先は未定ですが計画されているようです。



一日活動は、2班に分かれて実施。三田市の「人と自然の博物館」や「めんたいパーク」、「京都水族館」などにも出かけ、昼食もレストランで。日々の作業から離れて外出を楽しみます。

所長は、このような機会を通して施設の中だけでは分からない利用者本人が持っている力を再確認することができると思います。



退任あいさつ

和田 縉市朗



(さざんか福祉会 前常務理事)

今年3月31日をもって宝塚さざんか福祉会を退職させていただきます。前任の清水三郎元常務理事の後を継いだのが2000年4月、私が還暦を迎えた年でした。前任が5年間の在職だったので、私も5年程度と思っていました。なんと17年も勤めてしまいました。

振り返れば、この間、障害福祉サービスは大きく変わりました。2003年には措置費制度は支援費制度へ移行、2005年には障害者自立支援法が施行されて障害程度区分が導入され、さらに2012年には自立支援法が共生を目的とした障害者総合支援法になり、地域生活支援事業が新たに制度化されました。

このような新たな制度や施策への対応、そして毎年の特別支援学校卒業生の受け皿づくりに追われて、あつという間の17年でしたが、実感としては4、5年程度の時間感覚でしょうかありませんでした。これだけ仕事に専念し、充実感を持って仕事できたのも、育成会をはじめとする保護者の方々がさざんか福祉会へ寄せる期待に応えるのが、私の最後の仕事と決めていたからだと思います。

これからのさざんか福祉会を考えると、利用者・保護者の高齢化対応や地域生活支援、以前は予想だになかった労働力人口減少による福祉人材の採用難そして4月から始まった新たな社会福祉法人制度への対応など課題は山積しています。松井理事長、今西常務理事を中心に法人全職員が一体となって課題解決に取り組まれることを願ってやみません。

福祉、福祉の17年間でしたが、福祉の仕事は相手だけでなく、自分の生き様を問うものであることをも教えてくれました。さざんか福祉会で十二分に仕事をさせていただいたことに感謝して、退任の挨拶とさせていただきます。皆さま本当にありがとうございました。

小田切会長より...

平素は、宝塚さざんか福祉会後援会活動に深いご理解と協力を賜りまして誠にありがとうございます。

先日、身体障害者の方の同行で、スペインに行ってきました。その時驚いたのは、空港へのお迎えに側面からリフトで重い電動車いすごと乗車できる大型観光バスが来ていて、4台から8台の車いす固定箇所があり、安全に乗車でき、勿論、一般座席もあるので、広々とした空間に安定した走行でした。大きな協会のイベントでしたので、バスは合計14台用意され、全てバルセロナ市内の会社のバスでした。日本に帰り、インターネットで同様のバスを探しましたが、まだまだ数少ない状態でした。また、電動車いすを使われていらっしゃる方が、東京都営地下鉄(ホームと電車の隙間が狭いので渡し板がなく、お願いしない限り駅員さんの手助けもありません)で、前輪が隙間にはまってあやうく大惨事になる場所があったと聞きました。2020年には、オリンピック・パラリンピックが開催されます。障害者の方への思いやり、気配り、優しさ等、皆が自然にできるのか心配です。先進国の日本がいつの間にか福祉の世界では、少し遅れているように思うのは私だけでしょうか。より快適な福祉を日々皆様と一緒に目指しましょう。



各事業所の“わくわく”

宝塚ざぜんかの家

「いつも、いつまでも明るく・楽しく・健康に……！」

暖かくなり良い季節がやってきて新たに職員が一人増え、新しい年度を迎える事となりました。利用者さんは、幕開けは緊張した面持ちでしたが次第に緊張も解け今では和やかな雰囲気が見えます。折箱(木の芽)組み立て作業では、一人ひとりが色んな役割を持ち、あらかじめ決めた目標に向かって皆で一丸となり奮起する事で団結力が高まり、より良い達成感を味わえていてチームワークが良くなっているように思います。生活支援プログラム「かなりやの会」では本当に皆が良い表情を見せて心の底から楽しんでる様子を見て、職員が盛り上げなくてはならないと言います。使命感が有り、毎回盛り上げ担当に回っている今日この頃です。今後も「明るく楽しく健康に」をモットーに良いチームワークが継続できるように支援していきます。



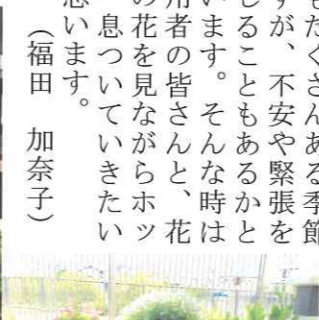
(鍋谷 彰)

宝塚あしたば園

「花の季節」

昔むかし、私がまだ学生の頃の話です。国語のテストで「季節の移り変わりをテーマにして文章を作りなさい。」という問題が出されました。その時に私が選んだのは「秋から冬への移り変わり」でした。早く陽が落ちるようになると部活の練習を早く終わるので、それが嬉しかったという安易な発想からでした。

今の私が同じ問題を出されたとしたら「冬から春」をテーマに書くと思います。毎年、春になるとあしたば園の花壇を見るのが楽しみになっていくからです。花壇の花がとても美しく美しく元気に咲いており、毎日眺めては綺麗だなあと感じています。今年度の花壇はチューリップがメインで、ご家族の方がたくさん球根を植えてくださっていました。冬の間しっかりと栄養を蓄え、少しずつ芽を出し、葉を伸ばし、素敵な花を咲かせてくれています。春にはいろいろなことが始まります。新しい出会いもあり、嬉しいことや楽しいこともたくさんある季節ですが、不安や緊張を感じることもあるかと思えます。そんな時は利用者の皆さんと、花壇の花を見ながらホッと一息ついていきたいと思えます。



(福田 加奈子)

宝塚めふらざ

「めふらざのドキドキ」

年度末から新年度にかけて、めふらざは職員の入替わりがあり、今までの作業や支援をどうやって続けて行こうか試行錯誤がありました。Saanquai.Tyから石塚支援員が入ってくれ、初日から活躍してくれています。本人も、お店で販売していためふらざの商品に、今後は作成に携わって嬉しいとの事です。作り手である利用者も、それを活かす作業技術も、覚える事が1からなので大変ですが、そうやって期待できるドキドキを持ってもらえる商品を作りました。嬉しさや喜びで繋がるものづくりをめふらざからお届けしたいです。



(溝田 康英)

だ 所 業 事

宝塚けやきの里

新入所者を迎えて

桜の季節も終わり、暖かな日差しを感じられる季節となりました。新年度が始まり、けやきの里にも新入所者さんをこの四月から二人迎えることとなりました。お二人ともこやの里特別支援学校から来られました。

お一人はiPhoneやiPadを使って音楽を聴いたり、写真を撮ること、動画を見ることが好きです。料理をすることも好きです。日中作業はタオル折りや資材の運搬に積極的に取り組んで下さっています。昼休みは本を見ながら絵を描いたり、好きな文字を書いたりして過ごされています。もうお一人は料理と塗り絵、パズルが好きです。日中作業はタオル折りをしたり、屋外清掃にも積極的に参加されています。また、昼休みは他の利用者さんと順番にバランスボールをしたり、一緒に数をカウントしたり、木製のパズルをする等コミュニケーションもとっておられます。お二人とも楽しい新生活をスタートされています。



他の利用者さんも若い二人のエネルギーに刺激されながら、また、新入所者の二人は先輩方の様子を見ながら日々の生活に慣れてもらっています。新入所者さんという、新しい春の風を迎えて、けやきの里の皆さんがますます元気に活動できることを楽しみにしております。

(下 千映子)

ワークプラザ宝塚

「夢はでっかく持とうー」ワークプラザ宝塚の新たなスタート

毎年の事ですが、2016年度が終わった感覚もないまま2017年度を迎えてしまいました。4月3日(月)にオリエンテーションを行いました。職員の紹介から始まり、利用者の自己紹介、保護者の自己紹介という流れです。中でもメインは、約55名の利用者の個性ある自己紹介!!前もって『名前と今年1年頑張りたいこと』を発表すると伝えました。この自己紹介を始めて4、5年ほどだったので、最初のころは自分の名前を言うだけで精一杯だったり、何も言えずに泣いてしまったりなど色々なことがありました。自己紹介だけで1時間近くかかったこともありましたが、そんな積み重ねで今年はずいぶん30分もかからずに終わることができました。去年はなかなか立って発表するまでに時間がかかったのに、最初の一言ですんなり立って発表できた事や、ついでに自分の思いや希望を述べる人もおり、この1年でこんなに成長したんだなあ...と思える瞬間でした。利用者が考えて発表したことをいくつかあげます。

- ・僕は二年目です。作業をがんばってお金をかせいで、『火の鳥伝記文庫』を買いたい!
 - ・旅行に連れて行ってあげたい!
 - ・ちなみに...職員の頑張りたいことは
 - ・楽しく仕事がしたい!
 - ・工賃をあげてボーナスを2回払えるようにしたい! などなど。
- ワークプラザ宝塚で働く仲間は今後も作業や楽しみをもって頑張りたいと思うのでよろしくお願いたします! (阪口 麻紀)



いきいき宝塚

「季節に触れる活動を」

季節は移り、いきいき宝塚にも春が来ました。天気もよく風が気持ちいい日には外に出て季節を感じます。そこにジュースやお菓子があれば最高です。利用者の方は日々の変化を感じながら楽しく生活しています。

去年の余暇活動では、カレーパーティーやクリスマスケーキバイキングなど利用者の皆さんが楽しめる様々な事をしました。また、室内ではホールでのカラオケやボールを使っている運動、外に行く場合は買い物を中心に出歩く機会も多くありました。

今年は、去年にも増して季節を感じられる余暇を増やし、利用者の皆さんが桜と同じく笑顔で満開になれるような余暇活動を目指していきたいと思っています。



(東根 直)

かしの木工房 さほま

「最近わくわくするわ！」

かしの木工房 こはまとSasanQualityのビジョンは、「働くこと(クッキー作業、ケーキ作業、企業提携作業、販売等)を通じて地域の役に立つ事業所になる」ことです。この地域の中でかしの木工房 こはまとSasanQualityの強みを生かしたいと思っています。そのため地域のことをよく知ろうと、まずはゴミ拾い、散歩を兼ねて地域のリサーチに出かけます。言うなれば「地域のために役に立つこと調査隊」です。

(写真は4月に出かけた時の様子です。)

かしの木工房 こはまとSasanQualityのことを知ってもらうことも大事ですが、地域の方々とお話をしたり町の様子を見たりして、自分たちが地域の事をもっとよく知ることが大事だと思います。



(田畑 敦彦)

地域の役に立つために何ができるのかは、すぐには見つけられないかもしれませんが、そういうものを見つけて、長く続けていきたいです。

サザンクオリティ

「7年目、新たな一歩ははじめました！」

清々しい新緑の季節ですね。さて、お知らせですが5月1日よりSasanQualityの営業時間に変更になり、平日・土日祝共に10時〜17時までの営業時間になりました。更に6月1日からは平日のみの営業となります。

職員が3名体制になり、シフトの調整が難しくなっただけです。でも、限られた時間だからこそ出来る事があるでしょう、これからも頑張っていこうと話しています。

今までは力強い男性陣が外回りに出ることが多かったのですが、これからは女性もパワーを結集させて明るく華やかに運搬や販売に向きたいと思います。皆様応援よろしくお願い致します。



(木ノ下 美智代)

宝塚くるみの里

「特製くるみ弁当はいかがですか？」

初夏の風が爽やかな季節になりました。こんな時期はおいしいお弁当を持ってお出掛けしたいですね。写真のお弁当とってもおいしそうですよ。皆さん何で作っていると思いますか？

実はサララップなんです。遅れて食事を取っている職員の給食の上に被せているラップが毎日余り、利用者がそれを丸めながら「何にみえる？」と問いかけてくださったのがきっかけに、おいしいお弁当が出来上がりました。どんなお弁当ができるかドキドキしながら、毎日一品ずつ増えてきています。これから何重のお弁当になっていくか楽しみです。本当でしたらゴミにならなくなっていくのがこんなに素敵に変身したことに私は感動しました。



(竹内 ゆかり)



さざんかグループホームの今



日本の障害者福祉を50年ほどさかのぼると、障害のある人たちの暮らしの中心は、親御さんのもと自宅で生活するか、市街地から遠く離れた場所にあるコロニーと呼ばれる入所型の施設群でした。

平成25年4月、障害者総合支援法が施行され「地域共生」が施策として掲げられています。障害のある人たちが地域で幸せに暮らしていくことを、当法人はすでに、昭和52年に設立された当時から思い描いていました。

さざんかグループホームは、平成19年に宝塚市手をつなぐ育成会から事業移管され、今年度で10年目を迎えました。現在20か所を運営し84名の利用者さんが親元を離れて生活しています。兵庫県下の法人と比べてみると最も多いホーム数です。

しかし、当法人には約300名の利用者が在籍しています。単純に計算しても約200名の将来はまだ不安な状況であり、今後ますますグループホームが必要といえます。

そんな中、度重なる福祉施設の火

災が全国的に起きてしまったことから、人命を第一優先に考慮した新たな消防法令が平成30年4月より施行されます。主な内容は、建物内のスプリンクラー設置義務です。

これを受け当法人は、3年前よりスプリンクラーが設置された建物を建設し、既存のホームから移り住むという新たな形でのグループホーム運営を計画し施行に向けた準備を行ってまいりました。

今回は、この計画が完了した状況場所・ホーム名を記したイラストをご紹介します。

お読みいただいている皆様が住まれているお近くにもグループホームがあるのではないのでしょうか。また機会がございましたらどうぞ気兼ねなく遊びに来てください。皆さん元気に暮らしていますよ。

(グループホーム事業部 部長

辻井 善弘)



『防犯対策について』

施設の防犯体制の弱さと世の中そんな悪い人はいないだろうという甘さを様々な事件を通して、感じていきます。今、ワークプラザでは次の事を考え実行しています。



- 1. 施設として最低限の防犯体制を整備**
 - ① 入館者は受付を必ず通す
 - ② 制服や名札を徹底する
 - ③ 防犯ブザーの設置・持参
- 2. 充実した防犯体制に見えるよう工夫**
 - ① 警備体制が厳しく犯行は困難だと思わせる
 - ② 不審者が侵入をあきらめる様に見える
 - ③ 防犯強化の案内等の貼り紙をする
- 3. 不審者の侵入を迅速に通報する体制・訓練**



もし、不審者に出会ったら、① 抵抗したり取り押さえようとしない。

- ② 「ドロボー」と大声で叫ぶ。
 - ③ 防犯ブザーのスイッチを入れる。
 - ④ 防犯ブザーを不審者に向かって投げける。
 - ⑤ 非常ベルを鳴らす。
 - ⑤ 助けを呼ぶ。
- 4. 利用者が危害を加えられた時の救護措置を速やかに行う**

以上の事を守り、日ごろから心がけることが大事だと思っ
ています。また、「地域に開かれた施設」とは利用者の生活の場に誰でも入れることではない事。一番大事なのは、施設が地域と係る場を作り活動を活発に行うことです。



法人の各事業所としても、上記のことを基本に、「警備体制が厳しく犯行は困難だ」と思わせる“見せる防犯体制”づくりを強化していきたいと思えます。
(ワークプラザ宝塚 上江洲 薫)

事業所市民見学会

2月7日(火)に事業所見学会が行われ、「宝塚さんかの家」及び「宝塚あしたば園」の見学をさせて頂きました。時折雪がちらちらと舞う寒さの厳しい日でしたが、総勢17名の皆様と大変有意義な時を過ごす事ができました。
「宝塚さんかの家」では、2班に分かれてそれぞれ脇田所長と大西主任が案内をして下さいました。個々の利用者さんに合わせた支援を心がけ、ホワイトボードに一日のスケジュールを貼り付ける等視覚的支援にも力を入れておられました。主な作業は3月で39年目になるといふ長期に亘る企業提携作業(木の芽箱)や自主生産品の制作、空き缶リサイクル、自立課題等で、ドライブや音楽活動も取り入れているそうです。トイレや更衣室の表示は分かりやすいイラストで描かれており、食堂前には献立が貼ってありました。目下の悩みは、建物の老朽化ともう少し空間に余裕があればなあとという事でした。



「宝塚あしたば園」では、山下所長がお迎え下さり本館・別館の案内をして下さいました。建物の天井が高いせいか全体的に広々とした感じでした。各利用者の方の得意な所が活かされる支援を心がけ、それぞれの状態によって支援の仕方や環境などを変えていっているとの事でした。個室のスペースを確保出来たことで非常に落ち着いた利用者さんもおられました。利用者さんによる空き缶リサイクル実演も見せて頂きました。フェルトの壁掛け制作といった活動やマグネットの組み立てなどにも取り組んでおられるそうです。
見学後は、宝塚あしたば園食堂で温かいコーヒーとかしの木工房こはまの美味しいパウンドケーキを馳走になりました。2カ所の事業所を見学させて頂く事により、その特徴や相違点を比較することが出来ました。両施設の所長さん、主任さんをはじめお世話下さった職員の方々、そして見学を受け入れて下さった利用者の方皆様、どうも有り難うございました。
(宝塚さんかの家保護者 笹平桂子)

人事



- ### I 4月1日付人事異動
- 1 常務理事** (今西 則行) (相談支援・権利擁護担当参事)
- 2 部長級** (今西 常務兼務)
- 事業所部長**
上江洲 薫 (ワークプラザ宝塚所長兼務)
- グループホーム事業部長・人材確保担当**
辻井 善弘 (さざんかグループホーム所長)
- 課長級**
法人事務局長 大内 葉子 (総務課主任)
総務課長 木村 孝一 (施設・管理室長)
車両管理課長 山本 正一 (さざんかグループホーム主任)
事業部 宝塚あしたば園主任 豊川 美奈子 (相談支援センター主任)
- 職員**
宝塚さんかの家 鍋谷 彰 (宝塚さんかの家) 任用替
宝塚さんかの家 久美子 (宝塚さんかの家) 任用替
宝塚あしたば園 西嶋 成美 (新規採用) 任用替
宝塚あしたば園 鶴田 征吾 (宝塚あしたば園) 任用替
宝塚あしたば園 陸之(かしの木工房こはま) 任用替
宝塚あしたば園 下 千映子 (宝塚あしたば園) 任用替
宝塚あしたば園 羽土 雄貴 (ワークプラザ宝塚) 任用替
宝塚あしたば園 中村 文二 (宝塚あしたば園)

- ### II 3月31日付退職
- 嘱託**
宝塚さんかの家 岩崎 慎吾 (新規採用) 任用替
宝塚あしたば園 井上 裕美子 (新規採用) 任用替
宝塚あしたば園 川口 小百合 (いっき宝塚) 任用替
宝塚あしたば園 入船 佐知子 (新規採用) 任用替
宝塚あしたば園 中井 拓郎 (新規採用) 任用替
ワークプラザ宝塚 横山 比出子 (新規採用) 任用替
ワークプラザ宝塚 女鹿 登志子 (宝塚あしたば園) 任用替
- 宝塚くるみの里 元治 里恵 (宝塚あしたば園) 任用替
宝塚くるみの里 小寺 智也 (宝塚あしたば園) 任用替
いっき宝塚 奈良尾 勇人 (新規採用) 任用替
いっき宝塚 藤本 あおい (新規採用) 任用替
いっき宝塚 大嶋 真奈美 (いっき宝塚) 任用替
さざんかグループホーム 山条 幸介 (宝塚あしたば園) 任用替
さざんかグループホーム 武市 裕介 (さざんかグループホーム) 任用替
さざんかグループホーム 村田 宏樹 (さざんかグループホーム) 任用替
- 和南 縉市朗** (常務理事) (宝塚さんかの家) 兼務地域生活支援センター長
松森 竜 (宝塚さんかの家) 任用替
久保 誠 (宝塚あしたば園) 任用替
田中 基彦 (宝塚あしたば園) 任用替
山井 小恵子 (宝塚あしたば園) 任用替
玉井 詩織 (宝塚あしたば園) 任用替
山本 琢磨 (宝塚あしたば園) 任用替
深谷 かなり (宝塚あしたば園) 任用替
前田 和彦 (宝塚あしたば園) 任用替
西村 辰広 (宝塚あしたば園) 任用替
玉木 康広 (宝塚あしたば園) 任用替
松尾 信子 (宝塚あしたば園) 任用替
- 宝塚くるみの里 中越 美加 (新規採用) 任用替
宝塚くるみの里 真鍋 雅己 (新規採用) 任用替
宝塚くるみの里 小宮 昭彦 (新規採用) 任用替
宝塚くるみの里 荒岡 智保 (新規採用) 任用替
宝塚くるみの里 平岡 智亮 (新規採用) 任用替
宝塚くるみの里 吉里 亮 (新規採用) 任用替

日誌

- 自平成28年12月1日
至平成29年4月30日
- 12月3日 かの木工房こはま 店頭販売開始 (第1・第3火曜日)
 - 12月5・6日 かの木工房こはま 1泊旅行
 - 12月8日 さざんかの家 もちつき大会 (ライオンズクラブ)
 - 12月29日 めふプラザ忘年会 (愛の持ち寄り寄付)
 - 1月13日 あしたば園 地域交流もちつき大会 (愛の持ち寄り寄付)
 - 1月1日 かの木工房こはま 「プレミアムフィンランシエ」発売
 - 1月11日〜18日 ワークプラザ 正門門柱撤去工事
 - 1月16日 さざんかの家 保護者合同新年会
 - 3月31日 かの木工房こはま 「プレミアムフィンランシエ」製造終了
 - 3月31日 喫茶COORO閉店
 - 4月4日 宝塚くるみの里 開所式





SASANQUA展

平成29年1月19日(木)~22日(日)



今回の展示会は、昨年の展示会を振り返り、自主生産に興味を持っていただけるお客様が多かったことから、体験教室で楽しんでもらい、法人の啓発に合わせ、人材募集をしてはどうかという意見があがりました。

毎年アピアのふれあい広場を使用して頂くことで、準備の段取りやポスター貼りなど、年々慣れて来ており、スムーズに出来ました。各事業所の人不足の中で人員の確保や、展示内容の準備など、負担感を感じることがありました。

さをり織は反物をたくさん飾り、カラフルな織りの壁が出来ました。SasanQua by イチオシ製品のパネルと、製品の展示、体験用の織機も展示しました。モザイクガラスの作品はオーナメントや、掛け時計などもありました。

展示内容が昨年に比べ少なかったこともあり、すぐに立ち去ってしまったため、アンケートは無料体験をしたお客様しか書いてもらえない状況でした。



無料体験の様子



(めふプラザ 溝田)

しかし、最終日にたくさんのお客様に無料体験をしてもらい、アンケートも書いてもらうことができました。子どもも大人も目を輝かせてものづくりに楽しんでいます。アンケートには、「いつも楽しみにしています」「や、「通り過ぎるだけです」でしたが、次回はお店に入ってみたく思います」といった嬉しい言葉をたくさんいただきました。



編集後記

今年の春は、朝夕の寒暖の差が激しく、桜の開花も遅れました。ようやく新緑のさわやかな…でも、日中は少し暑いくらいの季節を迎えました。

「事業所探訪」や「突撃！隣のグループホーム」などの取材を通じて、利用者さんの普段の姿や生活の場を見せて頂き、生の様子をお伝えできるように努めたいと思います。また職員さんのご苦心や心意気も感じます。先日の「事業所市民見学会」では缶潰しの最後の作業工程で、あまりの見事さに参加者から、おもしろい拍手が湧きました。その時の利用者さんの得意げな表情が素敵で…感激しました。この機関誌「さざんか」が市民への啓発に微力ながらも貢献出来るような内容にしたいと、「よいとこカーニバル」や「ゆうぐれコンサート」、「宝塚サマーフェスタ」、「先進地バス見学会」等々にも進んで参加し、楽しみながらより良い紙面作りをめざします。

後援会広報部は、法人施設長・いくせい会・地域ボランティアの構成で編集を担当しています。編集会議では、全員の忌憚のない意見交換により、時間の経つのも忘れるほどです。

このように「広報部」にようこそ、
あなたもご参加下さい♡

お申し込みは事務局へ…

お待ちしております。

(広報部 乗鞍)